

7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9

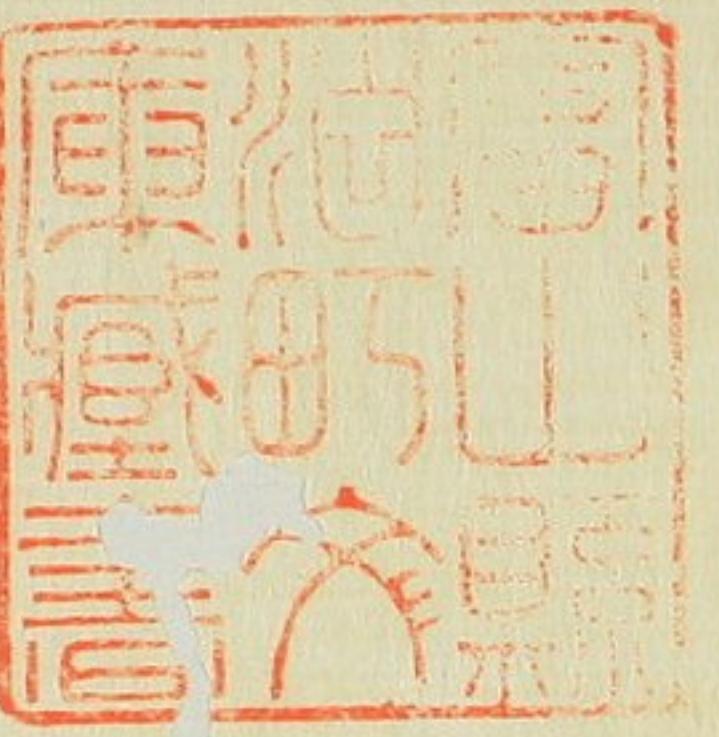
首
昌

孫氏物語

稿本
四十五



四十五



河内サハ卷名橋姫の心とくらでてすをこせとかの東下よ袖そくさき
一名優婆塞 是えもくさくするよ山のゆき心詞ふとけり
花宇治卷 或批此物語初桐壇より終夢浮橋まで五十四帖みて武部う書うるうとて
或人の下ゆるハ宇治十帖ハいとも大貳三位うきうの證據のうきうしてけりハ
班獻之史記とくさくしとく其子班固う書うるう相似うへ一 大貳三位ハ左衛門佐宣孝ノ女
賢子後一条院乳母叙三位也

柳應神天皇トテハ宇治宮八幡大菩薩ニ切くまと其乳子ニアリテト大鷦鷯の力トテアリ
トモ菟道稚子トトモア文門宇治稚子トモアレタ愛子ニシテモア東宮ニ
モアキセシテモア其後内門ノ位トモアリニシテモア東宮位ニセシテモアトモア此の
クニモアキセシテハ位ニアリナニモア位ニアリセシテトモアキセシテモア
アリモアキセシテハ位ニアリナニモア位ニアリセシテモアキセシテモア
心モハラクハキムントモ我ハ難波よりまきうるやう國ニアマシモカ調物トモ
ちモ宇治よりそまつれハ我ハ天皇ニモ難波ヘリそまつれとあわせられハ難波ヘモそ
まつれハあまくいとのうりのう袖トモアリシキリ三年とへまがくニモ宇治稚子アリハ
我ニのうそれ王乃心ナリとトモアヘリ久しくて天下トモアハさんやモアモアモアモア
トモアケレハシナキレハ大ニヨリこのアニヨリシテ難波よりゆききかくまくまくそク我
トモアケレハ立候ミシリコスリ乃ヒト棺ニじひてスリいのまんハうちヨリニシキ
スリハ立候アリハ立候アリ是ハ天命也ニモアリアリハスルトモアリトモア
棺ニシキトモアリハ立候アリトモアリ是ハ天命也ニモアリアリハスルトモアリトモア
乃モアシキシテ其後りん大ニヨリシテニ終ニ位ニアリハモアリ是ト仁德天皇トテ
宇治とえ名ハ山城國の郡名也やモア里モア宇治トモア是ハ昔トモアの名されハ神功皇后の御世
の奇の詞トモアリナクモアリテ宇治より年をもとより此不ニ住居すよりテ宇治稚子モ
ハ行く也今物語の宇治ハうはうの宮トトモア桐壇帝の寺ハ品也母ハ左大臣トモア

ソリ其の如きと冷泉院ホキの皇子也春宮よりくし時朱雀院の母后天后と曰へ、さう
き此后ヨリ御孫の東宮と冷泉院又引ニモれ候るをかゝる事ありてせりての
ことうて此八宮とくらべてそりてうつさがうるを六条院のゆゑにりいよもとこれゆて
きのうもととどりてそれより六条院と此八宮の中をもくろすせむてせきは
中くちうるあるて年月とくらべて京の世家入燒づゝハ宇治とえふよりあら山里の
わきよううひほりハ宇治のうそくの宮とハ名付けらセ肯の宇治稚子ハムシム位
といふて宇治ヨリうづくは此八宮ハ御城とくらぶと東宮と云ひてうちよりれけくと
やうされとひいともとをもして世とうら山よ名とのうき使ひのあくわいとくらべと
いふ才の間のゆうれはくと宇治卷とハアツヘはく也

橋姫 宇治一橋姫ハ奇の詞とりて卷の名とぞう董中將十六歳ト十八歳までのう巻

よりくらべて句兵部卿紅梅竹川等の巻と同事れる也

宇治十帖とハ大歳三位とぞうとえ矣わう難用乞紫式アラ息女也見花鳥紅梅竹川より宇治
二の巻混乱せり文駄ハ又時代のうそくを書乞此巻ハ紅梅巻よりうその也未よるゆ此
巻より董中將と有の宇治へまづ心とせつづくつまづ三年ハクとあり其秋の末より宇治へまづ
あり又十月より董中將と有の花鳥より董十六歳トハちとありとあり不審十九歳トナセ二十歳
冬まで乞巻名橋姫同云姫字濁てうじ乞一註可清乞此巻の始ハ八宮の幼少の時よりゆると
うきう其故ハ此宮のゆと以前の巻共よ書出さうみと八宮のタとちうりんからセ玉くらぶ
ゆとくらぶと如此のタカ

細 宇治十帖ハ筆より女大歳三位筆と云其故ハ文駄前よりう式部筆よりモと云い師說
不用之文駄をもわると以て式部筆の姓とハ可心得也其故ハ時代年七十年以来のゆとぞう故より
間よハ人の詞つひゆと不知てくらべてゆと未代よ成趣とアセラセラセを式アラ筆よりト宇治と号
するう花鳥菟道稚子のゆとひきを有真董の弁と以て年記と記せらよつて花鳥三ヶ年乃至
興有可勘董十九歳トハ一歳の冬までゆとナ此年の次ハ花鳥よりさて一の遺闕とぞう
則花鳥作者後廢帝寺法物語年立と同制作の物有件めがみハ年齡無相違也

○のうせ 細其比と云ハ當代今上のゆ時と
さもくらべて 細大臣の娘ハ女也とぞう
○もくらべてうす 幸八宮東宮と立並くさ
わく

○時うて花六条院とくらべての宮と中
する事ハ物のこもくしくおもてざると云上よ
くもくとくらべて
細冷泉院東宮と立並く弘徽殿の大后御宮
とくらべてちねりしき成就せらるゝとぞう
とハアツ呼汝莫くセハアツヘとぞう

○世とくらべて已故後見とアリウミ衆のゆと
くらべて

○のうせふくらべてくらべ
ぬきみかわくもく。ゆくあくも
やひくもくかくわく。ゆくあくも
くもくくがくかく。ゆくあくも
げりとけくもくせんふりく
めりとけくもくせんふりく
いとあくもくかく。ゆくあくも
もくのくもくかく。ゆくあくも
くもくくがくかく。ゆくあくも

くもくくがくかく。ゆくあくも

。アリの大臣 や秋在大臣系圖す

。アヤモツ 細八宮東宮ヨーチルホトカ方ミ
立后アズベーと文スルハアリ一

。アシヒ 又秋 方の心

。又キムニ 益八宮の大切ナシテヤア
アヌヌムル

。女君の細あまきの太君也

。アリモテ花此度も又姫君の生とみる
事トイテ世姫君ハ白兵部卿宮ミジクミル
て若君アシムクセテア

。シカヒナ細女君也

。アリエヌ玉水八宮の連ルハシタア
。良き人の巴掛カ方也

。アリエヌ玉水八宮の連ルハシタア

のうす。あは身そ細上鷹のくもくとくま
ハ天子といふうあはとハ親王うそと云う
もくくうとハえうじとせ君うちのうそと
もくしとくへ
かひとくとせ被れ出家也

のうす。或被姫君うちのうそ

のうす。おはれど、あはぐ
むかくてのうそとくんとく
ほくおばくあらひつ年月も
うきばくとくとくとくとく

のうす。生を細中君也此君とくとくとくとく

のうす。花いわやとく詞古今集の奇にまをと
くくくうそとくとくとくとくとくとくとく

のうす。のうす。細中方の遺言也此中の君とく
養育とくとく

。かのせと 奥城 附中君りよおおせひ

。おおせじ。おおせひ。おおせひ。おおせひ。

。つまやう。つまやう。つまやう。つまやう。

。まわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

。まわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

。まわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

。此君と。孟大君ハ勿論中君のよ也西皇

。とくとく河養育ハシム省

。池山うと弄八官の京れ宮のす

。草ウモヤモ万水拵地きのまを

。うふらわきておまく
。がとんとておまくされじ。
。うあうもじとおまくされじ。
。うおうもじとおまくされじ。
。うおうもじとおまくされじ。
。うおうもじとおまくされじ。
。うおうもじとおまくされじ。
。うおうもじとおまくされじ。
。うおうもじとおまくされじ。
。うおうもじとおまくされじ。

。うりつん或歎世ふうりゆ心也上の和よ太や
。持佛のうと 河持佛莊慶也

。あゆ心よ細やかとひきよだり也

。うりつん或歎世ふうりゆ心也上の和よ太や
。持佛のうと 河持佛莊慶也

。あゆ心よ細やかとひきよだり也

○此君の 真歴 古方也

○例の人ひゑ 花 男女の道れりと云也

○うそかよひせ候別のうそとあれかと云ふ
やあるゆきう可然とへ

○うそかよひせ候別のうそとあれかと云ふ
例の人ひゑうそとあれかと云ふ
うそかよひせ候別のうそとあれかと云ふ
うそかよひせ候別のうそとあれかと云ふ

○うそかよひせ候別のうそとあれかと云ふ

○うそかよひせ候別のうそとあれかと云ふ
細玉篇うそとあれかと云ふ字の篇と云ふていひ
うそかよひせ候別のうそとあれかと云ふ

人ひゑうそとあれかと云ふていひ
つまびらかにうそとあれかと云ふ
あひふくまでお隣までいひ
うそとあれかと云ふていひ
うそとあれかと云ふていひ
やうくわすれずいひ
うそとあれかと云ふていひ
うそとあれかと云ふていひ
うそとあれかと云ふていひ
うそとあれかと云ふていひ
うそとあれかと云ふていひ

池の水鳥花水鳥も又はくの春の心めつせ又
鶯鶯ハ嶋鷦も又はくの鳥也一うちもんへ今一もやう
て元ちうといア社子義う詩と鶯鶯不独宿
とつらううもやくの官ゆ方よもよひて水鳥
のつらううんどうやまくやくら也

月氣は池の水をうるおひすき
うつをりあうてうらみ
かどとほひくあくと
尼翁もほひひかくと
うわあまあまひあくと
をよかとむりあまひあくと
いとあくまうちのうかくと
うりあくまうちのうかくと
あうながやのきあくと

或歎大君ト中君也

。うらやまく哥ハ宮也花咲哥ハ姫君もんのゆど
うらやまくアモテのゆのをとづきあううのまハ鶴
子とツラヤの物語第二章相りうへ出来うう
アのキヨシテウいの中よ余こうううの差
名やまともうアテテえ兵衛ひくそてめて官よも
アヨウアシヒウうの子ウんせよとそまんの先
官こうアキテうれ物わびしきものひア
細や方のうとケとそとといアうのゆ鴨子よと
てうらやう心ハ假の世也大う不定う事中よるの
則のうへ不定う上へ不定とうう也

○
細
○

おもよきゆく
車歎 八宮の羽

○まくらよへ河硯の文珠の内眼也故よ眼石と云此
蓋どうて硯石との書也と云仍此面よ物と見え

草家の記を観面は不書とあり、又石の面
のみにさうとゆのやうしほうすめや、菅家
奉見河海又ちうゆのりうりうや

ひうてく奇 大君也 也候ひそ母よどもと
くそくわくとくおの上とあやへとひす

ひうねと 義姫 筆者の羽草子地也

ひう君も 万水 井の中君のゆせあさき
のゆゑあらやうせ

さあり、そ、うとてまつり
じづくして、もあら
ひそくす、もりうだとく
みもうに水をのちうりうをそ
しらべねどうのおりあれ
あうたうて、とおひよひんで
ま、くもつとおひよひんで
こらへもうけらとけし
ま、くもつとおひよひんで
あうたうて、とおひよひんで

おくし奇 中君也 直八宮のやうにてひり
とへもの中うて、うくさんと
お掛かりうとへ果て、もとて果て、もととせ
河大和物語 詞略之うく人のまのううもあき

（か）と今いとくさきのうて、ほくまうくと
せば、じりとひうちくとくとくとくとくとく
拾遺鳥のよハまじひうと立てひうのくは
むりううき
（か）と今いとくさきのうて、ほくまうくと
せば、じりとひうちくとくとくとくとくとくとく
拾遺鳥のよハまじひうと立てひうのくは
むりううき

ひうあくま 細八宮の心也此君の衣裳を

ひうあくま 細草子也 ひうてひす

ひうあくま 細草子也 ひうてひす

ひうあくま 細草子也 ひうてひす
別ひて何よし世中のわるどもうとく知不知

○三三三と 直字同と八宮ハアシガムと

○やかとくま カサ 高位のイセヒトテキチ

ちく人ミシ

○あきらかく 細八宮の母ハ大臣の母也其大臣
アミノイロトイテ
○ゆうすく或様八宮大やうみきまと少く
ゆうすくのを紛失スルシ以調度ハ巍ミシテ
アリ

○まかひ 直世ヨトシナカヒハマラシナ

○おやけあわわさまくあ
よおやくやうをんあわすよ
おうすればざきせのあはくよ
おやじらおもとのはくじぐるゑ
やくつまきうりきをげ
多もあくらがくもくわ
クハトトテモウハシマニト

○奇づくの河雅樂寮職貢今云雅樂寮頭
人乃至奇師四人律師四人笛師二人唐國樂師十二人
高麗樂師四人百濟樂師四人新羅樂師四人腰
鼓師二人_{翠略之}

○うのくハ 細樂の道といア

○ほ民の和ノス花ノテ始て八宮の系圖ハヤ
トクニアリハイ物語キトツラニ初ル次オ
ヨウシテクハ無下ニテ不モトヨリシヒミト後
のちヒミトヨリハツクヌアリトスル

○大后的弄 八宮と東宮より弘徽殿のあきま
る

○うのくハ 細樂の道といア
○ほ民の和ノス花ノテ始て八宮の系圖ハヤ
トクニアリハイ物語キトツラニ初ル次オ
ヨウシテクハ無下ニテ不モトヨリシヒミト後
のちヒミトヨリハツクヌアリトスル

○我内とさ或様弘徽殿の威勢の時也

○あさの細ほ民方といす

○みかづはく細ほ民の類親

○うらやま万水八宮の景の宮矣上也万事

○うら山里弄宮の山庄也是し八宮の註也
○うのぞみ或様宇治の註
○うのぞみ或様都とるりてえり
○うのぞみ

后のうら山里の事也
このもとせ年からうごき
くづ行ひゆりてうづきを
おまうさりよ。あつふくわが
おのれの内あひひるにまつあ
とむよなれば、いづくわが
はくふあうそのうせみてえ
まくひじうとふかども。
うらひじうとふかども。
海ハシムとくらがよすみ
すくう。うちがよすみ
あやまとくらがよすみ

。野山のまき 弄して野山たりとくま
心古也
むう人 細方也

。アノ奇 八宮也 弄時よりてとうに
心を衰也

。アノ奇 河大和物語 雲サモトニトニ
ハナシテのあら下るてのまくらまく
。アノ山のまくら 河山重江根
花六帖月よりひくみまきをありてのやま
。アノ奇てのまくらまく
。アノ奇人 盆都そぞまくまくまく
。アノ奇 宇治ハマムシ

。アノのまくら 河ノのまくら案のね勢
ものとおひつてせん世中のまく

。アノ奇 花 古今集喜撰清跡
我不ハ都のまくらまくらせとまくら山とへば
或書云喜撰隱宇治山持密呪食松葉得仙道云
後冷泉院の字永承七年頼通公宇治の別業
を捨て寺として平木院と名つて後阿闍梨四
口とドトセ慈覺智證の兩門徒と補セられ
侍

。法文と孟佛法と字筋とあるまこと

。年比まゆい或掛上の羽字向かひゆい
。アノ是ハ佛教のアノ也 まくら法文のは重の義と

讀説てこそセト

ハ蓮の向阿弥陀經極樂國土有七寶池
八功德水充滿其中池底純以沙金布地乃至池中
蓮華大如車輪花拾遺悉諸佛之舍の余り
ゆくと蓮の上れ玉とうさんハ寶万一千石を
むかへぬとソ人のきの上りのりゆく^{上也}空也

○冷泉院と細まよ大やきつゝかつへと
といづハ外様ひきうる公諸はうじうふもく時
院ハヨレクタスヘ

○きのよへ細聖教

○きのよへ益 佛法と内教外典オの
あきうれ河也

○きのよへ 幸冷泉院の内刊
○きのよへ 河淨名居士云身在家心出家
俗の秋と飛行と持とく也四部才子の中優達

○きのよへ まのめのんあくたる、素
めうはいとよまつて、例の
まうづきあくがどくとんじて、
とくせぬとれあるほひよ。
まのめのんあくたる、素
めうはいとよまつて、例の
まうづきあくがどくとんじて、
とくせぬとれあるほひよ。

○きのよへ まのめのんあくたる、素
めうはいとよまつて、例の
まうづきあくがどくとんじて、
とくせぬとれあるほひよ。

塞是也唐吉と龐居者もつひて多せ類わく九
聲聞ハ必令出家十地以上菩薩ハ無其儀也
花東坡山谷もアラウ有鬱僧在家僧も
と詩ひとつへり
此卷ハ以前の事也
或も世中を弄 葦の道心ハ柏木の事と考
うよシテトヨリセキトモトモヤの事也

のアマリナシニシテナカニ侍也
叶あらはまきアリハ御く
童の心
世事をいとまく事無くやくらへ
あらがふ。とくもひかどんよ
やくまくとくとくづりにうるす
うちかくしてくられど
人氣れどおもひてしきみ
ひづき身かくねくわいき
てや。いとくとくらむめで
あるまちのくわくを

のアマリナシニシテナカニ侍也
よろひある也
ももひざすハ 弄 宇治の聖の語也ハ宮乃
出家の志ひゆ也

今もりてハ万水ノリハカツヒヨ出家と
えがくと今ハセ考へらゆく

物のねうつ 盖 樂乎と也

ももひく母君 細ひまつす也

よもひくうう花 へハ古代也やうや
くひ也極樂の奇舞ハ菩薩の事と云う

りうちものねうつとく
よもひくひもとく
てくらむくらむくせゆく
くらむくらむくせゆく
りんがくくらむくせゆく
とくくくくくくくくく
うちのねうつとく
くらむくらむくせゆく
くらむくらむくせゆく
ありひやくくせゆく
くらむくらむくせゆく

○うちりある 直冷泉院の勅定也

うちりうきのわくよかし
てえのせのうじゆだら
うとそりをすとくとく
のやうにらまそひも
ぐりてうひくやんや
うむとくとくひくや
うやハ直 姫君たちと冷泉院へまくを
きよくとく

岳院のゆくハ細 冷泉院の注よく也

○朱雀院の細院のゆく也入道の宮のちよ

セ三官と源氏よりぞおひくとく

中ノアミ細董のゆく出家よきゆ八官のち
とじよくとく

○あまのゆく 已換かく入ゆ八官へれく董の
ゆ言はあら也

○足とハ河冷泉院のゆ院号は後され
ささよ院のゆくありれひのゆく也
あとくとそも更換ひくとくゆ言はく
文もあくとくとく
へつてこそ 已換山尉面のゆく無曲とえゆ也

うちりうきのわくよかし
てえのせのうじゆだら
うとそりをすとくとく
のやうにらまそひも
ぐりてうひくやんや
うむとくとくひくや
うやハ直 姫君たちと冷泉院へまくを
きよくとく

うちりうきのわくよかし
てえのせのうじゆだら
うとそりをすとくとく
のやうにらまそひも
ぐりてうひくやんや
うむとくとくひくや
うやハ直 姫君たちと冷泉院へまくを
きよくとく

せとくふ院や、弄冷泉院のせとくふ院
のとくかうくは、八官の方よりへそめやと
此の使を細聖もむ言傳りて世音と云
別よか使もそまつせぬ也

うのわたく、身換大きうくへとけ使え

よ院よりの内使られはとうこひぬ也

うちくよ万水真うやうけりてもよ一也

。あと絶て哥八宮也、已換せのうよ宿とうお
うう真實ひのどし道心よハカねもと
細自身一筋みせ間とらひとくわづみ、あと
喜撰、哥ううとくとくさくのあくセ結句真實

の道心トト出でうの高光う雲の八童一山
ハ住うしとくう類うくし
。じくのうと細院やそ迷懷の有やうよ
衰ゆくへとくらう也

。中將君の孟董のゆとくま八官よう
すくが也

。法文うの或妙是トクカの仰る也

。ちうくよくうくよくわくとくあくと
ちうくよくうくよくわくとくあくと

せとくふ院や、弄冷泉院のせとくふ院
のとくかうくは、八官の方よりへそめやと
此の使を細聖もむ言傳りて世音と云
別よか使もそまつせぬ也

まくとく日やてのやせぬもや
てうるわざりこのあつての
まくふくのうのあくまづ
あくのうのうは、まくがこの
うくふくにまくとくのうげい。

あくとくのうは、まくがこの
うくふくにまくとくのうげい。

くもるるはなむかふとまつり

くわくわくあみもせ牛と
くさうじゆくさんす。とくとく
えふわねどよびくわる

まくわくとくとくわんじくわる

うううとくとくわんじくとく

わくは孟董のまくとくとくハ宮(カナロ)う

トナリセ世中とくら細ハ宮の辺と月縁うくてハ道

がくくのとく

うううとくとくわんじくとく
内とくとくわんじくとく
うううとくとくわんじくとく
あきとくとくわんじくとく

わくは花多く不足うくとく

けせ

くとくとくとくとくとくとくとく
うううとくとくとくとくとくとくとく

うううとくとくとくとくとくとくとく
うううとくとくとくとくとくとくとく

うううとくとくとくとくとくとくとく
うううとくとくとくとくとくとくとく

うううとくとくとくとくとくとくとく
うううとくとくとくとくとくとくとく

うううとくとくとくとくとくとくとく
うううとくとくとくとくとくとくとく

うううとくとくとくとくとくとくとく
うううとくとくとくとくとくとくとく

○立てゝゆきとよ弄董の心中とやうら也
或故ハ官の職へ叢明あらむもあらむ董寄
特と也

○のれも 花法の朋也

○うだよ 盆ハ官と董と

○アラモ 细董也

○きなこーと 盆董の心也

○とくさく水の細宇治のこゝろれを風
いそを吹くゆいづるゝ殊勝也

○とうきひよそ河うち川の波たれよ夢もあ
てとうそ姫のつわづるゝ奥へ云此奇同時
奇乞不可爲證奇乞

○アラモー 盆浮圖へ來下よ不三宿前註
うそ住まひのとようやうよどよ

○の常れせり 万水董のひよ姫君とよじよ
とよじよひのとよせしよとよへかよへかよ
とよへかよへかよ

又のくふし まおせよ名をもみ凡下の僧
は支持禁戒とすあらやそれいじ也

○うるよ花無事也俗よとひやでうるよ
ゆうううとつひうううう
○ひと物一そく匂也故
○ひくやを万水董の出仕うううう故に教わ
寝不うきくへてううひひひひもくもく僧
きくひづくとくとくううううのむきくし

○べあてよ万水是う八宮のうと董の心也

○ア近きうひ孟經うと壁言喻うう
○ア花うきへへうううううううう
トうううううううううううううううううう
智惠ううて物のうううううううううううううう
善人うやうううううううううううううううう

○えりむすり万水八官と董のううううう

○サ君のう万水董の八官とううううう
て冷泉ううとあらゆへ八官とううううう

○ア花うきへへうううううううううううう
トうううううううううううううううううう
智惠ううて物のうううううううううううう
善人うやうううううううううううううううう

○ア花うきへへうううううううううううう
トうううううううううううううううううう
智惠ううて物のうううううううううううう
善人うやうううううううううううううううう

○ア花うきへへうううううううううううう
トうううううううううううううううううう
智惠ううて物のうううううううううううう
善人うやうううううううううううううううう

○ア花うきへへうううううううううううう
トうううううううううううううううううう
智惠ううて物のうううううううううううう
善人うやうううううううううううううううう

○此君も或故董也冷泉院とうもくうう
とくひぬせ

○三年ハテヌエ 幷董宰相にて三年ハテ宗義
トクルをあへて又其後中納言トクル五帖
の雜乱別註あり
細董十九廿一の年也花鳥年異アリ
秋のあつゝ細八日也四季より七日ての念佛也

○有明の月乃河とひう晚との月とす明
とすとそ然て朝と残月と是も第
あつゝとあれハ九月下旬のやうに社司骨松より
十五日より後の月と有明と云ひう 匠房卿續
本朝小生傳云十五日以後月とハ秋晨月と
ありもす 益八宮の念佛中の留王と董の
ちうづく也 河のこゝと 花今之橋寺ゆきうるく
細宇治橋ハ孝徳天皇文化元年丙午歲造川橋也

黒木の中 細 一絆淺き鄧中と云ふ不用之
萩木の中と云ひて 河内を論談あり暨

○山下風の奇 幌也 細なやうにあらう

心也 花後成脚奇 あしやく案の本葉の目も
きてりうるゆい 我見さむせ源氏の奇
とぞしてよしわざ

○山下風の奇 幌也 細なやうにあらう

す。すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。

○柴の葉の奇 幌也 細道と云ふ毛也

○山下風の奇 幌也 細道と云ふ毛也

○山下風の奇 幌也 細道と云ふ毛也

す。すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。
すこしあはれ。すこしあはれ。

○アラムの主ひ孟董の心也八官れんとく
レムタホセ

○アラムの主ひ巴抄琵琶ハシマニシマニヤ
チカマリハ箏のシマニシマニヤ
○アラムの主ひ巴抄河海注ひつー不ヘムミキ
アリ可心得テヤアリモ別のリナ
河サ黄鐘調ハ笛の黄鐘も比巴の風香調也比巴の
黄鐘よりねえ毛比巴ハ風香調返風香調も秘
曲あり楊真操流泉等曲也仍以兩調子寫先比
巴の黄鐘調ハ笛の平調もアリ也 下略

巴抄中君也

○アラムの主ひ孟董の心也八官れんとく
レムタホセ留主ヨウイトリセ也念佛ヨウイ
アリ

○アラムの主ひ孟董句也斟酌也

アラムの主ひ孟董の心也八官れんとく
レムタホセ

アラムの主ひ孟董の心也八官れんとく
レムタホセ

。あまうこ 益ゆきの人の句也 後のすくや
傳へといひて是よりとぞ下也

竹編塙自氏文集 河五架三間新草堂石階松柱
君うちれうきひれ善惡とくよアセリ
不忠也

。さておうますん序もまぬ
のあやくせんをざるよおぎ
ほらかうとくのやくわくをやくよ
のちのゆくやくんとわき
乃おまへ行のすひへくも
まよどもとあきとがくとも
ひきつまうにまわるんが
まよどもとあきとがくとも
人かきまわるんが
あもすひのりとす
あひてんむくは月をうきと
かく

。おやくせ おやくせ 一ヶ水
さくらとくらせ さくら
さくらとくらせ おやくせ おやくせ
さくらとくらせ おやくせ おやくせ

ひとく 細大君也

。寺まくら 河後撰元良親王の住むる時
くらのこまくらふるへるくとよりあせん
雲うねうつ河あまうぐくとく月のまく
せきあきうきくやぐくのひく 秋のよめ月う
く君ハ雲うれあうもんねばうくひく

。扇うて 河伊行尺奥入月陰重山寺敬
扇喻之止觀下略 花招月と云ふハ詩も
つくり入日とくと僕と云ふもあれハ月と招
ふ心うきくし 弄月と扇ふくろくわく

。おやくせ おやくせ 一ヶ水
さくらとくらせ さくら
さくらとくらせ おやくせ おやくせ
さくらとくらせ おやくせ おやくせ

。おやくせ おやくせ 一ヶ水
さくらとくらせ さくら
さくらとくらせ おやくせ おやくせ
さくらとくらせ おやくせ おやくせ

是ハクモクセ物語の事也

シヒムロ人 細中君也

八月とくと 細中君詞也出處不曉^{シテモ}
河史記曰魯陽以義廻落月奥へ又還城樂陵
王とあゆる^{シテ}と日のくと月の機にて月と午
下略弄^{シテ}河海^{シテ}未詳何
書の文^{シテ}や一答其書不曉樂の譜^{シテ}みのせう
を^{シテ}いき^{シテ}あつるや
。今^{シテ}ありう^{シテ}弄中君也

あう^{シテ}弄又^{シテ}君の語也

。これも月^{シテ}河比巴^{シテ}の機ハ隠月^{シテ}花^{シテ}
之李嬌琵琶詩云半月分絃上下略
花琵琶の機とあゆり^{シテ}あると^{シテ}隠月と云々^{シテ}
あるの下^{シテ}あつ^{シテ}上^{シテ}雲^{シテ}る月^{シテ}ひして隠
月の^{シテ}とらひ^{シテ}心詞類^{シテ}あつ^{シテ}う^{シテ}
さく^{シテ}

。う^{シテ}う^{シテ}かしや^{シテ}細ちく^{シテ}世の常^{シテ}女^{シテ}よ
ひう^{シテ}か^{シテ}やく^{シテ}くわ

。ひう^{シテ}物^{シテ}花佐吉物語^{シテ}姫君の琴引歌と申
將^{シテ}さす^{シテ}を^{シテ}ける^{シテ}と^{シテ}う^{シテ}う^{シテ}四月^{シテ}花^{シテ}
さ^{シテ}た^{シテ}れ^{シテ}八官今宮^{シテ}姫宮^{シテ}花^{シテ}あ^{シテ}て琴^{シテ}も
引^{シテ}あ^{シテ}を^{シテ}あゆむ^{シテ}あ^{シテ}り

弄^{シテ}董^{シテ}の怨^{シテ}也^{シテ}う^{シテ}不物語^{シテ}う^{シテ}う^{シテ}女^{シテ}の^{シテ}く^{シテ}ま^{シテ}て
う^{シテ}と^{シテ}引^{シテ}と今若君^{シテ}と云^{シテ}人^{シテ}と^{シテ}う^{シテ}ま^{シテ}て
う^{シテ}ひ^{シテ}と^{シテ}く^{シテ}う^{シテ}と^{シテ}う^{シテ}う^{シテ}あ^{シテ}と^{シテ}お^{シテ}う^{シテ}
う^{シテ}う^{シテ}う^{シテ}う^{シテ}う^{シテ}う^{シテ}う^{シテ}う^{シテ}う^{シテ}

。世^{シテ}う^{シテ}う^{シテ}已^{シテ}按^{シテ}世^{シテ}六^{シテ}又^{シテ}始^{シテ}の^{シテ}あ^{シテ}る

。又月^{シテ}う^{シテ}細^{シテ}村^{シテ}雲^{シテ}の^{シテ}色^{シテ}あ^{シテ}る^{シテ}ア^{シテ}
ア^{シテ}う^{シテ}あ^{シテ}と^{シテ}う^{シテ}て^{シテ}え^{シテ}あ^{シテ}よ^{シテ}も^{シテ}面白^{シテ}

。アやひうきる 盂入のくまかにハね
もろとあふぎゆうわくわざれびくわく
ト方体やと男せよ通してひまうゆうて
とうく
。やどくら出で 盂くわくせ

。京ニ巾車 細夜も明々くそくひや

。やくすく 奉八官の山留主れす也

。やくすく 細今まつづかくよ

。やくすく 道をく夜陵のあすれ
うとく

。アスや 振舞君へらの笠

。アシイー 盂そがうかそわくうそ
さひわくせうめ也

。アシイー も 身教心の銭うき

。アシイー とくにとくにとくにとくに
あやしくかうぐくとくにとくに
あやうるとおりひじかがおれ
とおどりひじかがおれとおれ
おれとおれとおれとおれとおれ
あやしくかうぐくとくにとくに
あやうるとおりひじかがおれ
とおどりひじかがおれとおれ
おれとおれとおれとおれとおれ

。アシイー とくにとくにとくにとくに

。あらうよ、或母遠慮さんも時まくり
細ドアアベシヘドモされハ也

。あらうよ、或母姫君たちの月をみる
うちふ也

。此アキミタスハ 細 薑の句也

。山のうきら 河古今世よれハムカトモキ
アリテ山のうきらね見すしてん
。多くて 益一段只よがとよもぎくせう
道と分てまつとめりやうじとくのひと

。ひきとくのてちかうとくのれ
えんじあむへとくひのり
ゆうじとくわやふのひづき
くのひじうふぬよるぐみ
サクシテアラヤヘビのと
くのひじうふぬよるぐみ
わくとくおこりあがひのと
あくびとあひもくつ
てうかともゆひとくわく
枝とくさくわゆくわく
づくとくさくわゆくわく
もくとくさくわゆくわく

。うす 河くらみやく心也
。せうろ 細せ送すとよとよとよとよと
うととあき一出る也

。ことくらむと あひの君の河也

。うすとくらむと あひの君の河也
或母さうへとくらむと 姫君の河也

うとううう 細董詞也世間のうとうう
うとうううとつううせのうひせうう
あひううあがくうがくとうう恨

うひうう 幸父官のうひううはなう姫
君のううひてひかのううはなううう
おお姫君のうひううはなうううう
おお姫君のうひううはなうううう

うよももも 花拾遺サ尼よううへ
とよううそはや志賀のう風ひううのう
のうううう
うよくまひ 盆ううううひまううの
浅深とううううううううううう

うの常れ 桃桜せう常れ色人のうようう
あかううううううううううううう
うううう

うううう 盂薰の實はうううううう
うううう大君れうううううううう
うううう
うううう 取換 薰のうううううう
うううううううううううう
うううううううううううう

うううう 女姫君のうせ

老人の 盂 大君は董へ返すと老人の
老人のまゝうみかづく也 比較老人ハ余也
○トシノ細く細くもへやとの外うもと云也も
クテキが老人の出でる也董の座をひたすらの
うちよきとさくまろ

○ヨリモハ 盂 我アハタニモカヒムア
キテテシテ余うれ財と老人の云也

○ハレハレ 乎 年よりうと

○ハレハレ 細老人の釣

○ハラウタハ 盂 うるわシハシムトトト
うきよ董の出い有うてと老人の

○ハラウタハ 万水 董の出いハ班君もとお
カカウタハ
○ハラウタハ 細董の心也
○ハラウタハ 老人哉もと
○ハラウタハ 細董の釣まつもと

○ハラウタハ 万水 董の出いハ班君もとお
カカウタハ
○ハラウタハ 細董の心也
○ハラウタハ 老人哉もと
○ハラウタハ 細董の釣まつもと

おひぐの出いハシムトトト
放だくへがくさうてあふ
ミジメヤマシマサシマサシ
シの風すのけりふくすれ
うちかくとづくめ乃
ヤドアカルヤシカナルが
カクアカルヤシカナルが
スドモカハセ年かとす
船人の手すもあく節有
モモリモカハギムゲド

。おゆるも 又ゆく これらへ物のやうなや
ようとつば 老人へやひきへてあらへるや
上の河口姫君のほゆもやひきふとのほゆも
本すのえどり 水を さう 蓮とのえどり

みえふらうとくのまにありひ
きくわけりよのこへようかわく
そそじわあむくとまうの
をはりわいがくのやくく
めのうそくとくとくとくとくとくとく

。せの外へ 或敷 佛の異香うとくのやくは

。せの外へ 細老人の詞也 蓮のぬぐはれ

。せの外へ 細老人の詞也 蓮のぬぐはれ

。大ふれひきへ 細蓮のゆく 涌りゆく ば老
人のゆくひきへ ゆくゆくゆくゆくゆく

。みえふらうとくのまにありひ
きくわけりよのこへようかわく
そそじわあむくとまうの
をはりわいがくのやくく
めのうそくとくとくとくとくとくとくとく
きさくとうわくやくらうりあき
くくうううううううううううう
けせのやのうりひよくく
のうくくくくくくくくくくく
ひくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
けくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくくく
くくくくくくく
くくくくくく
くくくくく
くくくく
くくく
くく
くく

うよく 細 薫の句

さとひにじまきあつわうとく
あくねもくらむんのあく
うわけくらうのでよ
のこからつきうりあうとく
さとひ

うけつて 盆つとよまれハ残さヒヤ

よのらへやく河人余不停過於山水今日難存明
亦難保何縱心令佳惡法涅槃經
雪山鳥唱云今日不知死明日不知死何故造作極
安穩無常身

あくねもくらむんのあく
うわけくらうのでよ
のこからつきうりあうとく
さとひ

うけつて 盆つとよまれハ残さヒヤ

三条の宮み 細 薫宮の山方也かのひ出せ

小侍從細 女三宮の乳母のじともくせ老人弁
君とく柏木の乳母れじまち

あくねもくらむんのあく
うわけくらうのでよ
のこからつきうりあうとく
さとひ

うけつて 差拂つて男とくもく

よもよひいへゆねたはひく
さくねふくとがのふく
やもくうのまじまく
せーお下シタやのんねくを
けふくせのすゑふくうく
せうつうつてうつて
このみをせうせのやくも

八宮や方の母さば伯父せさわねハ官や方と世弁と
よこせうえよこれよこすく姫君たちの
後見といす
左大納言 幸 紅梅大臣のゆせ大臣よ成ぬる前
の時萬うそ

よもよひいへゆねたはひく
さくねふくとがのふく
やもくうのまじまく
せーお下シタやのんねくを
けふくせのすゑふくうく
せうつうつてうつて
このみをせうせのやくも

。手をあつて 細くやせ年はうよ處あつと

。故權大納言花則右衛門督同人也

。人をもと 巴枝弁うじへたまうと

。のむかする 桐木の遺言の文サニ官へ
まわさうわいへ也巻のまよあ

。孟 唯今アラタモアハ
ミー出モアラヤムアヒト

。細奇特うきよ金

河巫ミナミキ覗カニキ文選
弄ミマリ神ミツコのつて物モノよ似シテ
細薰ヒノキの心

河巫ミナミキ覗カニキ文選
弄ミマリ神ミツコのつて物モノよ似シテ
細薰ヒノキの心

河巫ミナミキ覗カニキ文選
弄ミマリ神ミツコのつて物モノよ似シテ
細薰ヒノキの心

河巫ミナミキ覗カニキ文選
弄ミマリ神ミツコのつて物モノよ似シテ
細薰ヒノキの心

あやくまひく
ののしりかへるや
めづふせがくらしとあつれ
おがつふくわやとくらま
すらとゆのとばじとく
されどがくにくらむまき
よまゆめうかづりて
もとあくさんむらと
うきねがくとありひ
うきねがくとありひ
内ナカニかくゆのねあつま
よまんぐくかくすとおり
河巫ミナミキ覗カニキ文選
弄ミマリ神ミツコのつて物モノよ似シテ
細薰ヒノキの心

あやくまひく
ののしりかへるや
めづふせがくらしとあつれ
おがつふくわやとくらま
すらとゆのとばじとく
されどがくにくらむまき
よまゆめうかづりて
もとあくさんむらと
うきねがくとありひ
うきねがくとありひ
内ナカニかくゆのねあつま
よまんぐくかくすとおり
河巫ミナミキ覗カニキ文選
弄ミマリ神ミツコのつて物モノよ似シテ
細薰ヒノキの心

。鈴ヶ原を哥 董也 細折簾の益せ
河楨尾山 宇治山城皆 権本よまきの山へと有

。まうとう 幸雄君の事とひよしきる也

。ゆうす 已故 さみせ房衆董へとゆう
○例のひと 已故 姫君也

。雲のゆう哥 姫君也 已故 さみのまき
哥もやハ宮寺さうのちつとくもひへこひと
自他景氣の哥

。ゆうす 已故 董のひ

。きよひくさへ 幸董のひとゆう又宮中と
天と長也

。ゆくやと 或被 直面

。中くき 孟 董の羽也

。世の人りて 幸董と大との世人へりてひと
さうとうやかねと

。やうハ河戸治川のひよりうねはまくとる
網代りてふ人のつこと六帖貫主 舟和碁氷魚
後撰 長月の臘月の日紅葉よりもつまど
そとけされはうちふく女うち山の紅葉とだ
なう月のたゞきゆいともあす舟ノキ
花内膳司式云山城国近江国氷魚網代各一處其
氷裏始九月至十二月世日供之今案近江の田上
の網代よりうる氷裏を山城国宇治とどもひす
の網代よりうる氷裏を山城国宇治とどもひす

ありとすかねにほへヒタリ
タリとすみくさみくさみくさみくさみくさ
人まうひうちがゆりてよ
おりてよがくめくわくと
さりどもあくまくとど水色も
くのよやくさんすくのく
カラタクミシアヒトガムのく
カトリミシアヒトガムのく
タリミシアヒトガムのく

。あれもとく河如同也 弄くるよおきと
たおて又身の上をくらひくね妙也
。玉のうそふ 河きよあれは玉のうそふ
きよあやめ草のひちのうそ
孟薰の玉代うそふ住て水上ようまのうそ
うそふありうそふ

。姫の哥 薰也 弄姫君と橋姫ようまにて
さかのやよ已下ハ 薰のガヨウマヘ
河橋姫ハ宇治橋の神也故よ万葉うそふや
宇治といひ 花橋下に姫大明神と神也難官
の神此姫神ようまへひひそと云說あり又說住吉大
明神の宇治に橋本ようまへひひそと云々さりうそ
衣うそふうそふひひそと我ともうくらの橋姫此
哥ハ住吉大明神の哥といひほへうそ
うそふうそふひひそと我ともうくらの橋姫此
詩よ鶴皮といひ是也

。うそふうそふひひそと鳥立と云也
うそふうそふひひそと
。うそふうそふひひそと
。うそふうそふひひそと
。うそふうそふひひそと

。まつりうき大君也 細姫君我身の上を悉守
。ひかへり也 今案三句ハ薰の方とひて三
句以下姫君よりくへまつり
。おこへうきて 河こどきのまよひもみ
。ゆよおとへうそともちもやうが
。まかよ或缺まかハ正財也 まかまかとまか
。まかよ、班君の財と薰の心也

。アヨミテせ 細八官アリ候ん時
。薰の行也

。アヒトロハ細姫君たちの事
。おひくの物アリ弄世と觀るふ可見
。巴披世とくらひんとくらまよ治ヘシヒテ姫君よ
。かうわり世上の人たびを可觀
。えうて 巴披 詞と撰して也
。うちうきり 弄 薰の文代行
。ときわけりて 細くちくへりぎれとくら
。けくとく

。アヒトロハ細姫君たちの事
。おひくの物アリ弄世と觀るふ可見
。巴披世とくらひんとくらまよ治ヘシヒテ姫君よ
。かうわり世上の人たびを可觀
。えうて 巴披 詞と撰して也
。うちうきり 弄 薰の文代行
。ときわけりて 細くちくへりぎれとくら
。けくとく

ハトモくうよ或姫艶書りとまふま
文草也

左近のうそ細左近將監也

の老人或姫弁うる也董の引也

とのかへり或姫董のうひやアハ也

。又の日万水左近うそと使の次日うそ

。又の日細川七日念佛の間の布施

ひのうじやうのわわくせき
とほ。又の日、の脚をすうもすう
ほじうのうじも。どのうじ
のあくろのじとくらばく
うすさんとくらはくまほ
のあせりくべうじめぐち
まなこくもとやうくく
うれはとくひぐりふつこ
まみけうらむかどすげて一
くううれいとくわうぶく
のうくとくわうふくわう

。あらひくもとやうく
布施るひくも

の山を 河 将衣毛

短裳旧事本記

身と毛々 巴接者とハえくぬ毛々不似相りうそ
ふよゆうせし 細杜子義う詩よ錦鯨巻還客
衛覺意和平とソラ類也

あすくすや 益 草子地也

君、姫君の細君、ハ董也宇治う返事也

おもくすと 乗 うそとハ巨字の心也大や
なり也
うそやうそ 或接 姫君(董)う文のちう
うそサ房うら八宮へと文どもアセアセ
カセセキ也

おもくすハ 细 八宮の羽也

おもくすと 巴缺 姫君よ返すわれと
例のうそと孟董ハ常の若人の心で、
うそ也我うくうかうくハうくうくと八宮の
カセセキ也

おもくすも 细 八宮也絹綿うももうもと
ねくうもしほううの礼とよくうもと
薰のうもとおもんとく

三宮の細白官也名うのううへる事
出のひねく也案之白官宇治山通ひ
おもて紅梅卷よわううも初てうとみハ
此卷ハ紅梅よわううもさのめ也

○やうう 爺董の白官へまづ

○あらうさの万水宇治そ姫君うちの琴
琵琶ひくねうスふせんせうもく白官
よううおじ

也

○あらうさの萬水宇治そ姫君うちの琴

琵琶ひくねうスふせんせうもく白官
よううおじ

○あらうさのあいせん 或披白官の羽也

○あらうさのあいせん 盂我のひだりのひと

○あらうさの細董の羽也

○あらうさの細我のひとひ引ひと
ひとひと

○あらうさの細我のひとひ引ひと
ひとひと

○やとくかし 弄白宮ハヤモトノ内侍
ヨリハ

○アラシナスホ弄物とのせなるとの意
アラシナスホがおもての外をもつておる
アラシナスホとあへども

○サヒテモ細八官のひちうらゆかう
ヨリヤのまわらはうの外をもつておる
アラシナスホとあへども

○アラシナスホ 直正財也とやひ者也
アラシナスホ 巴接るやのとこもく合
シハあかひきと

○アラシナスホ 或接白宮の眞實よやひ付
アラシナスホ 董のとくばくばく

○アラシナスホ 弄大やうよ上ううう
或接廣大ううふ也

○アラシナスホ 細董とぞりぬ也

おもてやう 細 董の心

細 董の詞

おがくさんばかくそくは
あくをほきまくせすかくすく
めじとさひのむすびやうらか
まくさうとくうへのゆく
ゆくとくうわがくうあくすく
ゆくとくうわがくうあくすく
つまくわくわくわくわくわく

ゆくとくうわくわくわくわく
きのむくわくわくわくわく
じくわくわくわくわくわく
じくわくわくわくわくわく
ゆくとくうわくわくわくわく

おもてやう 細白宮の詞

ひアミトハ 河聖人詞也 弄聖詞也

おのうちよハ 盂 董の心也 老人のひの
うるる也

おうどモハ孟 人へかくうと時分とくへ
とく納代のタハおやりきを也

おとうううのひどりよ 河蛇蟠勢無常の
贊はおもて朝生暮死虫也 西田法師やえ水魚
とくせう常のうやう心得う無念のう也蟠勢
朝生て夕死ゆて無常のうと人の虫のち
を水魚の名よアヒトソハ何の真う直と大方
物語ハシトタクセバ理りこれうてさる多るに
おう車うて弄昔ハ年うとけものうし車也
おとうううのひどりよ 花菖ハ翁御毛平絹と用ひ

おとうううのひどりよ 河蛇蟠勢無常の
贊はおもて朝生暮死虫也 西田法師やえ水魚
とくせう常のうやう心得う無念のう也蟠勢
朝生て夕死ゆて無常のうと人の虫のち
を水魚の名よアヒトソハ何の真う直と大方
物語ハシトタクセバ理りこれうてさる多るに
おう車うて弄昔ハ年うとけものうし車也
おとうううのひどりよ 花菖ハ翁御毛平絹と用ひ

弄 向云昔ハ公卿も着しと花鳥よりとひの
ア大さのやうな人へいそりの時着もうちを
橋姫卷てハ薰中將著もくあり十月也答
シハ、車縫と云也殿上人着用之又公卿ハ其冬
更衣の時着之又服者うと着也

○文と巴松經文

○川島河請下

○市子細義理うく也

おやがすかくらべてまきく
おひくらむとくらべてまきく
おひくらむとくらべてまきく

○あいしありへ 細姫君のゆだとひ生ろせ
三三のれの弄 八官のぢんれ上手うりとひ生
うのとこ薰のひひ出せ

○川島細薰の約

○とうじと 川松姫君の琴琵琶ひさみ
一

○ひろどもうと 河君うてたまくさん梅花
色もうとくへうふ 細八官の約

○とくめく 益今ハやうむかむ

○ううう 河無論 勿論也
○ううう 弄用よろひハアハアシと

○ううう 細八宮のまち候也

○ううう 細八宮のまち候也

ううう あらハ川底ぐりやあ
わらすんうあうわのやうう

すうううのうりしゆどりども
トとくんおはとわくへ

ううう おとわくへふみたれ
トとくんおはとわくへ

ううう おとわくへふみたれ
トとくんおはとわくへ

○ううう あらハモ或抄八宮のまち候もまく入候を

○ううう 盆ひひひひひひひひひひひひひひひひ
きこれハ薰の口かくら

○ううう そつて そつて そつて そつて そつて
かうかうかうかうかうかうかうかうかうかうかう

○ううう そつて そつて そつて そつて そつて
かうかうかうかうかうかうかうかうかうかうかう

○ううう 或抄八宮の初也出家の身を姫君
ううう ううう ううう ううう ううう ううう ううう

行まともまともまともまともまともまともまとも
行まともまともまともまともまともまともまとも

○ううう そつて そつて そつて そつて そつて
かうかうかうかうかうかうかうかうかうかうかう

○あらまへとあらまへと孟人の上さへおほきよ我らの
つまらんとおがとよがのびと
○うそをうその世の 奴娘董の約也

○うそとく 細董弁君よしむ羽也又ちく人
あらまへと

○小侍従と弁と 細弁の君羽
孟人よアラミトモアリヤハナシタマニ

○物とくも 或様弁君卑下してトカヘ

○のふきよ 幸柏木のふきよ
○さやうれ 万水柏木とせ三官の文ふ侍従
と弁とくもハトウツラテアリトマニトマニ
○今ハのとくもよ 万水柏木歸終の時弁よ遺言
ちかく

○うそとくもされハ或掛せ一句ハ弁用捨てトマ
ニと草子地也弁り羽とハタクヘテうそ也
○今ハのとくもよ 万水柏木歸終の時弁よ遺言
ちかく

○うそとく身 巴娘弁くも也

○佛ハ世ニ巴被佛トソヨリ世ニアシ祈の叶

○ひんへせとくき立ゆかすの文

○さくらしもはうすをあわうばん

○いりよそと 巴被力立木つろちやう

今そのつどよめらひめう
とほせせよおめまくと
あんじくはくちくわらばんせ
まきづきおもむけりのたる
かやくわなねくらんく約
タのからとあらうのうち
まてけうらばからくらやも
とくとくおらこひくせ
とげきせとくもくく
やのめせとめくまとくもく
くぶくにゆくがくやく

○まくとくとく出でて

○母のくを弄前世の宿同

○じう 細柏木也

○母侍弄弁奴也柏木乳芝
孟柏木と云死するも

○衣うちくひ花弁君柏木の眼と奴の眼と
と着ふる事と云也 河縷衣袴衣和名
ひこうむらひハ儀一と衣をうち秋と云也
衣をうち只ひ口やきばきともやとまうう
よしおへ弁弁と妻をかへりもとと賣
くちくとくがくがくのた
くちくとくがくがくのを
つをくにけりがくとばく

。人のも 永安 おうまで西國へて死す也

。世宮ハ父ニヨ 細姫君と親類也
或被弃り又ハ左中弁にて八宮のの方の母方にち
らしくせよまへモーと

。冷泉院の女 細致仕大臣女柏木の妹也

。ア山うねの河 うもうと山うねのうねが
心ハ花よりはやうる
或被 宮治み住みへきめとくわうと
。小侍從ハソロウセ被 薑のゆゑ知りて

。例のあそそな細前も物語そ夜をもる
。さて例のく、いづ
。トナリハ 奈 薑の語

。そくまくうじゆく行へど
。リハあくねんじやでえ
。生れど、おひぐまのうら
。あよゆくまてゆりあう。お薺
。ハラウシセゆよしん。うむの
。ヨシヒトシシゆくひふす
。すくあくゆくのんよとくも令
。せよおゆくのんよとくも令
。さくかくらかくらくくく
。ごめうひゆきかどゆゆ
。やくふ例のあそそてあ
。バこのひづあくうづきす

おつじつ或換 薫の五六歳の時

万水 争うひとハ柏木とまの
あやしめとて罪をうしな
やま何細て許す仙魔

がまへ 弄薰のまへそ焼もとゆきやうへ
孟女三官のねがそ焼もとゆき我はくへとまの
と柏木の臨終の詞也

と花うひて古くまへとまの

のうじくかとくわゆひ
いりとくわくあてじゆくおまく
えくまくのせむへ我もとく

おつじつ或換 小侍從よ渡へて女三官(懸)

やうそ別き 細西海きそくうしる私之悲也
おつじつ或換 薫の年くまむまくま
何とくまくまく
おの古へハ或換 薫のひせ
孟老人うれぶく人よひひだるやと

べくわくよくわくよくのむ
うかくじのかくとくうかく
めくわくせくわくわくばくわく
みくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわく
やくわくわくわくわく
アカイアカイアカイアカイ
アカイアカイアカイアカイ
アカイアカイアカイアカイ
アカイアカイアカイアカイ
アカイアカイアカイアカイ
アカイアカイアカイアカイ

○あかべと万水 薫の序を朝れり也

○さのべと日 河 腹日
或抄小物忌も暇日うりし薰の内也
弄はとくわう日ハスくへも生入セモ外モ出
モ物忌うきてはしじ也
○うのせ一宮 弄冷泉院のせ官事毋致仕大
臣セ弘徽殿と号ヒ

○あく細 八官羽吹衣のす也

○のゆきと河 唐津織綾
上と文字 或夜奉セ
○のゆき 弄柏木の封つこゑ也

○ゆ文のゆきと細 せ三官のゆ文也
○ゆハのゆ手モ病ハ弄柏木文の詞也 あ文
せ三官のゆアヤウヘシハリテリ おとひまえき
井ノ方よりイセ也

○あえぬ。アツムテモヅの裏
をきんめつじのゆせんき
をあひて。よどりみまく
ようじく。ゆきまくもて。は
乃のをゆひひよ。みゆみ
ゆうけさう。わくみのあ
うくもあえぬ。ひくのうみ
も。たまくかくひくゆ文
のゆすりつしつがわら。そん
みゆみのゆ。ゆきひくゆ
うくもあえぬ。かくよ。うくも
むかくかくのゆ。も

○かくちよ 井柏木今とみやとみれが三官
といふ心うひう
巴被の懷姫のタ柏木ハ已臨終よかく
きゆうくとも

○かくちよ 井女三官の尼よぬめつる也
くら也

○かくちよ 河蒼額見鳥跡始て文まと
くら也

○かくちよ 奇柏木也 細望と人能也
花古今とまどよきそとまくす玉うしもき
くよわく君うきうき

○えくす 或被文の端にせせ文ハ一度よりす
といひと書くくへうしりくくまくハあらの

誕生うき

○二のやく 花かくきよみて是は薰時
うしきく 井柏木の内子ハ分かれハ薰の行
うしきく うしきくハうまされと令堪らてアとあう
るうしきく うしきく心也

○余りハ奇是も柏木也 巴被うそきうさん

物うそきう未父へと安祝へるひうじ
結語うそきう正財うそき

○かくちよ 虫の花 白氏文集第十四 紅牋自絶
兩三束半是君詩半是書經年不展縁身病今
日閑着生蠹魚 まくのうりそとめのんハ
半是君詩也 うそきうやうそく有の心ハ經年
不展也 うそきう虫是もて三不の心介る也
細くほりまく文と月日へわかれもたる往
くとくうそくとくへ家のとあるも心の往
あくはうそく 河をつるわとハ千疊もあく
をうそくれとせくへやうそく

○かくちよ 桑桑キラ我命とくねばがち
やまとくとくとく落うそくとく

○かくちよ かくちよとハうひ
うしきく うしきくもひへうしきく
ますとく うしきくもひへうしきく
を・あんちのうしきくみづねよづ
つづとあやまうしきくのあとのや
ようじて

○かくちよ やのまくよこあせとくし
うしきく うしきくもひへうしきく
さくのうしきく二葉のがくのうしきく
うしきく うしきくもひへうしきく
うしきく うしきくもひへうしきく
いのうしきく うしきくもひへうしきく

○かくちよ やのまくよこあせとくし
うしきく うしきくもひへうしきく
さくのうしきく二葉のがくのうしきく
うしきく うしきくもひへうしきく
うしきく うしきくもひへうしきく
いのうしきく うしきくもひへうしきく

○かくちよ やのまくよこあせとくし
うしきく うしきくもひへうしきく
さくのうしきく二葉のがくのうしきく
うしきく うしきくもひへうしきく
うしきく うしきくもひへうしきく
いのうしきく うしきくもひへうしきく

○かくちよ やのまくよこあせとくし
うしきく うしきくもひへうしきく
さくのうしきく二葉のがくのうしきく
うしきく うしきくもひへうしきく
うしきく うしきくもひへうしきく
いのうしきく うしきくもひへうしきく

うちまつし直接上の内物をあらわす
セ官のやアヒテアヒテアヒテアヒテ
アヤのあまくよ并セ官のあまくよ

うちまつし直接上の内物をあらわす
セ官のやアヒテアヒテアヒテアヒテ
アヤのあまくよ并セ官のあまくよ

うちまつし直接上の内物をあらわす
セ官のやアヒテアヒテアヒテアヒテ
アヤのあまくよ并セ官のあまくよ

